

第80回 オスマン帝国

1 オスマン帝国の成立と発展

- トルコ系のセルジューク朝が分裂した後、() が小アジア(アナトリア半島)に建国されていた。
→その後、13世紀末にトルコ系の遊牧民が()を建国した。



オスマン1世
オスマン帝国の初代スルタンとされているが、その人生には謎とされる部分が多い。

☆オスマン帝国 (1299年ころ～1922年)

都…ブルサ→アドリアノーブル(エディルネ)→イスタンブル

◆オスマン1世(オスマン=ベイ)(在位1299年ころ～1326年)

- トルコ系の遊牧民が中心となり、アナトリアにオスマン帝国を建国した。

◆ムラト1世(在位1359～1389年)

- 1366年、バルカン半島に進出し、都を()に移した。
- 1389年、コソヴォの戦いでセルビアなどを破り、バルカン半島を征服した。

◆() (在位1389～1402年)

- 1396年、()で、フランス・ドイツ連合軍を破った。
- しかし1402年、()でティムールに敗れて捕えられた。
→オスマン帝国は一時的に崩壊したが、しばらくして再興された。



ジギスムント

VS.



VS. バヤジット1世

バヤジット1世は、「稲妻」の異名を持つ天才的な軍人であった。キリスト教勢力の連合軍を率いたハンガリー王ジギスムントは、後の神聖ローマ皇帝である。第65回を復習。



バヤジット1世

VS.



VS. ティムール

稲妻バヤジットも、アンカラの戦いでは味方の裏切りによって不覚をとった。捕虜になったまま、失意のうちに病死したとされる。

2 オスマン帝国の繁栄



メフメト2世
コンスタンティノープルを征服したため、「征服者」というあだ名がある。イタリア遠征の途中で病死。遠征が行われていたら、どうなっていたらうか。

◆() (在位1444～1446、1451～1481年)

- ()年、コンスタンティノープルを征服し、()を滅ぼした。
→()と改称し、新しい都とした。
- クリミア半島のクリム=ハン国を属国とした。



オスマン艦隊の山越え
ビザンツ帝国の必死の抵抗に苦戦したメフメト2世は、艦隊を山越えさせて、コンスタンティノープルの湾内に入れた。第61回を復習しよう。

16世紀(オスマン帝国・サファヴィー朝の発展)





セリム1世
「冷酷者」の異名
を持つスルタン。

- ◆ () (在位 1512 年～1520 年)
- ・ 1514 年、サファヴィー朝のイスマーイールを破った。
- ・ 1517 年、() を滅ぼし、エジプトとシリアを征服した。
→東西貿易の中心地を抑えて、莫大な利益を手にするようになった。
→ () を手に入れ、イスラーム世界の盟主となった。



スレイマン1世
オスマン帝国の最盛
期のスルタンである。
「立法者」と呼ばれる。
ターバンでかすぎ。

- ◆ () (在位 1520～1566 年)
- ・ 1526 年、モハーチの戦いに勝利し、ハンガリーの大部分を征服した。
- ・ 1529 年、神聖ローマ帝国の都である () を包囲した。
→征服には失敗した (第1次ウィーン包囲)。
- ・ 1538 年、() で、スペインとヴェネツィアを破った。
- ・ 神聖ローマ帝国 (ハプスブルク家) との対立から、フランス (ヴァロワ朝)
の () と同盟した。
→ () を与え、フランス商人に通商の自由を認めた。



スレイマン=モスク

スレイマン1世の命により、建築家ミマール=シナンが建設した。イスタンブルの丘の上であり、非常に美しいシルエットで知られる。



イスタンブルのコーヒーハウス

16 世紀に世界初の喫茶店(コーヒー店)がイスタンブルにできた。当時のコーヒーは、粉をそのままお湯に溶かしたもので、ドロドロしている。



フランス王フランソワ1世

フランスと神聖ローマ帝国とのイタリア戦争は、この時代が一番激しかった。宿敵を倒すためには、イスラーム教徒と手を結ぶこともいとわなかった。

3 オスマン帝国の支配体制

- ・ 支配下のキリスト教徒の少年を、() という制度で集めて教育し、高級官僚や () と呼ばれる常備軍の親衛隊として用いた。
- ・ 土地の徴税権を与える () によりシパーヒーという騎士を用いた。
- ・ 非ムスリムには、() という共同体を作らせ従来の信仰や慣習を認めた。
- ・ イスラーム教徒には、イスラーム法である () とそれを補うカーヌーンを適用して支配した。

4 オスマン帝国の動揺

- ・ 1571 年、オスマン艦隊は、() でスペイン艦隊に敗れた。
→地中海におけるオスマン帝国の勢力が、ただちに衰退したわけではなかった。

- ・ 1683 年、第2次ウィーン包囲に失敗し、ヨーロッパ勢力に大敗した。
→1699 年、() によってハンガリーをオーストリアに奪われた。
→アフメト3世のチューリップ時代を経て、オスマン帝国は徐々に衰退していった。
- ・ 18 世紀以降、地方有力者であるアーヤーンにより、徴税請負制が普及した。